

創業・新事業展開の事例紹介 ～創業支援ルーム入居者のご紹介(その51)～

ウェスタ川越創業支援ルームは、様々な業種・業態の方々にご入居いただいております。創業準備中の方、個人事業から法人を設立される方、創業5年以内のスタートアップ段階の方、新分野への事業展開を目指されている方が入居されています。そこで、このコーナーでは入居者の紹介をさせていただいております。これから創業を希望される方は、創業の事例として参考いただければ幸いです。また、この記事をお読みになり、ビジネスパートナーとしての関係を構築されたい方は、創業支援ルーム事務局かご本人宛に直接ご連絡ください。

521号室

合同会社 PRISM Lab

代表社員 大屋 武尊 様



【事業内容】

弊社は2022年2月の設立です。これまで主にスマートフォンアプリの受託開発を行なっています。その他ではアプリ内で表示するコンテンツを管理するための管理ツールの開発、アプリの自社開発を進めています。自社開発としては、「さやまアプリ」があります。今後は、他の市区町村でも簡単に

導入できるようにパッケージ化を計画しています。

現在、日本のIT業界において、深刻なエンジニア不足が問題となっています。“良い”エンジニアは大手企業に集中する傾向があり、中小企業やスタートアップ企業には安定的なリソース確保が困難な状況です。そこで、弊社は積極的にオフショア開発を行ない、安定的なエンジニアのリソースを確保しています。オフショア開発は、“品質面で心配”の声がありますが、弊社はこれまでの経験、ノウハウで優秀なエンジニアを常時確保し、品質の安定供給が可能です。そして、何より原価を抑えられ、価格面でお客様にメリットを提供できるようになります。

オフショア開発での取組みは通算4年くらいになりますが、最初の1～2年は苦労しました。自分の考え方を海外のエンジニアにどのように理解してもらうか、どうやったら伝わるか、試行錯誤の連続でした。そして、今では意思疎通が十分できるようになり、質の高いオフショア開発ができるようになりました。

弊社は開発の質だけではなく、お客様からお聴きしたことが開発段階でズレが生じないように十分配慮しています。よくある例では、「お客様からお聴きした内容が実際の開発段階になると違っている」ということがあります。弊社では、長いエンジニア歴を持つ担当者がお客様から要望をお聴きして要件定義を行ないますのでズレが起きにくくなります。

最後に、弊社はお客様との関りにおいて「信頼関係」を築いてお付き合いしていきたいと考えています。そのためには、これまでにお伝えしましたように質の高いサービス提供はもちろんですが、お客様のご要望にできるだけフレキシブルにお応えできるよう取組みたい、と考えています。

【自己紹介をお願いします】

出身は埼玉県行田市です。中学時代は野球部に所属し、当時からパソコンが大好きで、趣味を兼ねて野球部のホームページを開発しました。みんなでチャットやブログをしたりして、野球だけではなくネットを通じて広く繋がりをもつようになりました。

学校を卒業する前年に東日本大震災があり、就職活動の時期ではあったのですが、就職活動はほどほどにして、英語習得のためニュージーランドに留学しました。半年程度でしたが、コミュニケーションが取れるようになり日本に戻りました。エンジニア、スマホのアプリ開発、更にはプロジェクトマネージャーとしてアプリ、Webサービスの開発に従事して、現在の会社を設立するに至りました。

【創業支援ルーム入居のきっかけ】

当時、狭山が自宅兼職場でしたが、集中して仕事ができる環境ではなく、オフィスを探しているところでした。その頃、川越でIT企業が入居するビルを知人が紹介してくれたことがきっかけで川越を知り、興味を持つようになりました。川越で入居できそうな物件を探している時、ウェスタ川越が入居募集しているホームページを見て、応募し、運よく入居することができました。

【入居後に感じるメリット】

まだ入居間もない状況の中、施設を卒業されたIT系の企業をご紹介いただいたり、ネットワークの拡大が期待できる気がしています。また、立地、集中できる環境面は大きなメリットとして実感しています。

【今後の事業について】

第一に、「さやまアプリ」のパッケージ化による地域中小企業・小規模事業者の無料広告掲載など地域経済活性化に繋がる取組み、第二に、スマホのアプリ開発（ソフト）とドローンやロボット等（ハード）の間にAIを融合させた開発の取組みが挙げられます。今後の時代の流れとしてソフト面はChatGPT等に頼ることが多くなると想定されます。その分弊社の事業への影響も考慮し、時代に合ったスピーディーな戦略で対応することが急務であると感じています。

今後ともよろしく願いいたします。

事業所名	合同会社 PRISM Lab
住所	川越市新宿町1-17-17 ウェスタ川越 521号室
電話番号	090-5539-0052
URL	https://prismlab.jp/
E-mail	takeru_oya@prismlab.jp

裏面 は創業支援ルームに関するイベント情報です。

創業支援ルーム イベント情報

活動報告

515号室 ウィ・コネクト合同会社 代表 斉藤 美佐子 様

「DX認定」取得のご支援の取組み

同社の主な事業は、中小企業に向けた「ITの導入や活用の支援サービス」です。

今回は同社が取組む「『DX認定』取得の支援サービスの提供」についての報告となります。「DX認定制度」は、国が作成した指針を踏まえ、企業がデジタルによって自らのビジネスを変革する準備が整っている事業者を認定するものです。認定されることによる企業のメリットは、①企業価値やイメージの向上 ②税制優遇、低金利融資 ③DX推進における自社課題の整理と取組への共通認識が作れる事などが挙げられます。全国で毎月30社程度が認定を受け、その数は年々増加。認定だけが目的ではなく、企業がDXを推進することで、経営革新に繋がる期待が持てるのが背景にあります。

同社では、DXに向けた課題の整理、DX戦略の策定～認定取得の準備を支援しています。DXについて、「何から手を付けたら良いか」お悩みの事業者様はお問合わせしてみたいかがでしょうか。

※認定は、申請も含めて無料。いつでも申請可能。



DX支援
DX認定
取得支援



お問合せ：049-293-2855

info@we-connect.co.jp

※出所：経産省ホームページから一部加筆

活動報告

514号室 株式会社菊地企画 代表取締役 菊地 三生 様



空き家の状況と同社の取組み、ご支援について

空き家が増えてきています。総務省の統計によると総住宅数は6242万戸、その内、居住世帯のない住宅は876万戸となっております。川越市の空き家は、「川越市空き家実態調査書（令和4年6月）」によると1678戸です。空き家が増える要因の一つとして、居住者が介護施設に入所、相続が発生、相続処理がうまく進まないケースです。

空き家バンクを設けている自治体は多いですが、なかなか機能していない自治体が多くあります。機能していない理由の一つとして、登録できる空き家の条件が厳しいため、門前払いをされて、登録を諦めてしまうケースが見受けられます。

空き家の処理は地域によりやり方が異なりますが、埼玉、川越市は、地価が高く住宅需要が多いため、処理がし易い地域です。

相続処理、空き家のリノベーション、解体撤去等を所有者に分かりやすく提案し、ご理解を得て実施することで、空き家所有者に賃料や売却代金等の経済的利益をもたらす、ワンストップ型の業務（ソリューション営業）ができる不動産会社が増えてきています。

同社も、**空き家の処理をメイン業務**とし、税理士、司法書士、弁護士、土地家屋調査士と連携し**空き家の解消**に邁進しています。空き家でお困りの方やご存じの方はお気軽にお問合わせいただければ幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。

お問合わせ 携帯：080-5546-2362
メール：k-kikaku21@star.ocn.ne.jp

創業支援ルーム入居者募集（申し込みの締め切りは令和5年5月2日(火)まで）

埼玉県西部地域振興ふれあい拠点施設「ウエスタ川越」創業支援ルームでは、今後入居可能となる予定のお部屋（ブースタイプ 1室 1名利用 10㎡）を対象に、令和5年5月中旬「入居審査会」を開催する予定です。入居に関する個別相談・施設見学申し込みを、随時受け付けておりますので、事前にご連絡・お申出ください。

詳細はウエスタ川越のホームページ（QRコード）、もしくは、入居に関するご案内のPDFファイルをご覧ください。

※PDFダウンロードURL⇒<https://www.westa-kawagoe.jp/download/files/sougyou-annnai.pdf>
(なお、書類提出の前に、一度事務局までご連絡ください。)



QRコード

紙面に関するお問い合わせ

埼玉県西部地域振興ふれあい拠点施設 ウエスタ川越 創業支援ルーム
〒350-1124 埼玉県川越市新宿町1-17-17
電話：049-249-1185 / Fax：049-249-1180
メール sougyou@westa-kawagoe.jp